

# PREVENTION No. 195

平成20年11月20日開催

## JFE スチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区)における ブリーフインターベンション研究実施状況

JFE スチール(株) 西日本製鉄所ヘルスサポートセンター 松井 絵里子

### ■はじめに

Brief intervention (ブリーフインターベンション, 簡易介入)とは、飲酒量削減を目的とした短時間のカウンセリングによる介入手法である。多量飲酒者の飲酒量削減に対するこの手法の有効性は欧米で確認されているが、わが国では未だその検証すら行われていない。

そこで、平成19年度から厚生労働科学研究「わが国成人の飲酒実態把握と関連問題の介入に関する研究」で「多量飲酒者に対するワークブックを使用した簡易介入の randomized controlled trial (RCT)」(以後、本研究)が行われている。本研究がわが国で初めて、多量飲酒者への介入方法としての簡易介入の有効性を多施設共同で多数例を無作為割付で検証する研究となっている。

今回の研究では、簡易介入の有効性を検証すると同時に、アルコール臨床経験のあまりない保健師、看護師、心理士、栄養士などのコメディカルスタッフが簡易介入を簡単に行えるように、介入マニュアルと対象者に配布するワークブックが用意されている。エントリー基準を満たした対象者は、ワークブックを使った2回の介入を行なうB群、2回の介入+飲酒等に関する日記を3ヶ月つけるD群、およびコントロール群(C群)に無作為に割りつけられ、介入・日記の効果が検証される。

研究の実施場所を職域と総合病院・診療所の2箇所として、本研究に参加いただける施設をリクルートした。参加表明をいただいた施設の担当者に対して平成20年2月29日~3月1日に研修会を行い、同年4月から介入研究を開始した。今回の発表者松井様のJFE スチール(株) 西日本製鉄所は、多くの対象者をエントリーいただいた最初の施設である。研究は現在も進行中で、初回介入13ヶ月後の転帰調査まですべて修了した対象者はまだいない。今回の研究会では、本研究プロトコルを用いた介入で最も多くの経験を有する松井様にその途中経過を発表いただいた(文責 樋口進)。

### ■会社概要

JFE スチール(株) 西日本製鉄所は倉敷地区と福山地区にわかれています。倉敷地区は直協社員合わせて約1万2000名であり、ヘルスサポートセンターは、平成15年に開設し、保健師7名を含め産業医、臨床心理士、スポーツトレーナーを合わせて16名が働いています。保健師は職場ごとに受け持ちがあり、1人当たり約600名の直社員を担当しています。

### ■飲酒問題に関する取り組み

当社では、集団全体に働きかけるポピュレーションアプローチや既に健康障害に関して高いリス

クを持つ人に行うハイリスクアプローチにより様々な指導を行っています。主に行っている活動として、健診時の保健指導、健康教室や安全会議等での講話、ポスターによる情報提供を実施しています。

#### ■研究参加経緯

飲酒問題に対してのこれらのアプローチはどれもその有効性が不明確であり、ブリーフインタビューションは研究段階ではありますが、具体的な指導方法を示しており、1つの方法として鍵になればと思い参加することにしました。

#### ■対象者、募集人数、募集方法

当所では研究対象者となる、飲酒量210g以上600g未満/週の者は、586/3,335名(治療中含)で、その中から定期健診時や、職場での健康指導時に声をかけ募集しました。定員は45名としました。

#### ■実施状況

実施プログラムは、第1回：スクリーニング、オリエンテーション、ワークブック説明、第2回：(2週間後)ワークブック(基礎編)、第3回：(1ヶ月後)ワークブック(応用編)、第4回：(3ヵ月後)まとめ、第5回：飲酒量調査送付となっており、当所では第4回目の介入まで39名が終了しています。

#### ■ブリーフインタビューションを進めるにあたっての感想、感触

募集については、健診時の短時間で参加の了承を得ることは難しく、急速社員との信頼関係ができてきた担当保健師が担当職場で呼びかけることとなり、健診時よりスムーズに了承を得ることができました。また、研究を進めるにあたり、ブリーフインタビューションはまだ研究段階であることや、ワークブックを使用する為多忙の中、社員がきちんと記入し、プログラム終了まで参加して頂けるか心配でした。初回のオリエンテーション時、飲酒カレンダーで最近1ヶ月間の飲酒量チェックでは参加者の意欲を高めることができました。ブリーフインタビューションでは、成功体験の振り返りや節酒宣言等、自己効力感を上げられるワークが多く盛り込まれています。参加者より「節酒の必要性を理解でき、適正量をきちんと把握できる。節酒していることやプログラムに参加している事が、苦痛に感じずできている。この目標であれば続けられる。参加した意味があった。」と口々に言われています。また、介入者として「ワークブックとそれに対するマニュアルに従って進めていくため介入が簡単であり短時間で効果的に節酒指導ができる。」と今までにない節酒に対する指導の感触を得ることができており、今後ブリーフインタビューションを継続していきたいと考えています。また、介入者としてブリーフインタビューションのマニュアルで勉強していくことは、モチベーションの向上にも繋がったと言えます。まだ、最終的な結果は明らかではありませんが、今後ブリーフインタビューションが、有効であるという結果のもと、1つのツールとして社会に広まることを期待しています。